

## 5.1.8 卒業論文・卒業研究Ⅱの最終成果物の体裁

卒業論文については、担当教員の指示がある場合はそれに従い、指示がない場合は下記の要領に従ってください。なお、APUでは引用の仕方、文章作法、体裁などをまとめたAPUライティングマニュアル（日本語）、APU Style Guide（英語）がアカデミック・オフィスウェブサイトで提供されていますので参考にしてください。卒業研究Ⅱの最終成果物は論文を基本としますが、担当教員によっては他の形式（例・映像作品）を認める場合があります。教員の指示に従ってください。



### 日本語で執筆する

#### 文字数・枚数等に関する目安

APS：本文のみで400字原稿用紙換算で80枚～100枚。

APM：本文及び脚注で400字原稿用紙換算で50枚～100枚

- いずれも表や資料がある場合は、本文の枚数に含める。

#### ページ数の記載

必ずつける。

#### フォント

文字は10.5～12ポイント程度の大きさを使うこと。

#### 目次

表紙の次の1枚（＝ページ）に目次をつけ、各章・節のタイトルを明記する。章・節のタイトルのあとには必ず本文のページを記す。

#### 文体

「だ／である」体に統一する。

#### 形式

APA方式（米国心理学協会が採用するスタイルで、心理学をはじめ、社会科学一般で汎用されている。APUは社会科学系の大学であることを考慮）を採用する。具体的には、以下の通りである。

- 見出しと小見出し

論述の本文はいくつかの章に分かれる。章のそれぞれに番号（1.、2.、3.、…）を与え見出しをつけること。章をさらにいくつかの節に分ける場合は、それぞれの節に番号（3.1、3.2、…）を与え、小見出しをつけること。いずれも太字を使用する。

## ・注

論述のある部分を取立てて、それに補足を加えたいとき、本文の内容でそれを行えば、段落の論理的な一貫性を損なうことがある。そのような時は、次の要領で注を設ける。

- 本文の当該箇所の語句末尾に(1)または1などの番号を上付けする
- 論文の最後に〈注〉の文字を太文字で書き、その次の行から注記を開始する。
- 注記の番号は本文中の上付き番号に符号させる。
- 〈注〉の文字、および注記は、本文より活字ポイントを下げて書く。

## ・引用

自分の論述内容を補強するために引用を行う。また、先行研究を踏まえていることを示す意味もある。引用の方法は教員の指示に従うこと。

## ・引用文献一覧

本文で行われた引用のすべてについて、その出典を示す。引用はしていないが、参考にしたという文献まで含める場合は〈参考文献〉とする。詳細は教員の指示に従うこと。

## 英語で執筆する

担当教員の指示がある場合はそれに従い、指示がない場合は下記の要領に従ってください。

### 文字数・枚数等に関する目安

APS：本文のみで12,000～15,000語〔word〕

APM：本文及び脚注で7,000～15,000語〔word〕

- いずれも表や資料がある場合は、本文の枚数に含める。

### ページ数の記載

必ずつける。

### フォント

文字は10.5～12ポイント程度の大きさを使うこと。

### 目次

表紙の次の1枚(=ページ)に目次をつけ、各章・節のタイトルを明記する。章・節のタイトルのあとには必ず本文のページを記す。

### 形式

APA方式(米国心理学協会が採用するスタイルで、心理学をはじめ、社会科学一般で汎用されている。APUは社会科学系の大学であることを考慮)を採用する。具体的には、以下の通りである。

#### ・見出しと小見出し

論述の本文はいくつかの章に分かれる。章のそれぞれに番号(1.、2.、3.、…)を与え見出しをつけること。章をさらにいくつかの節に分ける場合は、それぞれの節に番号(3.1.、3.2.、…)を与え、小見出しをつけること。いずれも太字を使用する。

## ・注

論述のある部分を取立てて、それに補足を加えたいとき、本文の内容でそれを行えば、段落の論理的・一貫性を損なうことがある。そのような時は、次の要領で注を設ける。

- 本文の当該箇所の語句末尾に(1)または1などの番号を上付けする
- 論文の最後に〈注〉の文字を太文字で書き、その次の行から注記を開始する。
- 注記の番号は本文中の上付き番号に符号させる。
- 〈注〉の文字、および注記は、本文より活字ポイントを下げて書く。

## ・引用

自分の論述内容を補強するために引用を行う。また、先行研究を踏まえていることを示す意味もある。引用の方法については教員の指示に従うこと。

## ・引用文献一覧

本文で行われた引用のすべてについて、その出典を示す。引用はしていないが、参考にしたという文献まで含める場合は〈参考文献〉とする。詳細は教員の指示に従うこと。